

やちよ

あ

八千代の防災を知りたい！

女性^{はてな}の「？」に答えます

1923年に起こった関東大震災から100年目の今年。改めて防災や災害について考えてみませんか。知っているようで知らない地域の防災対策。女性対象に行ったアンケートでは、たくさんの「？」がありました。中でも皆さんの関心が高かった、避難所の「？」について危機管理課職員に聞きました。

紙面に掲載できなかった質問と答えは、市ホームページに掲載しています。さらに詳しく知りたい方は、危機管理課(047-421-6716)にお問合せ下さい。

ホームページ ▶



避難所ってどういうところですか？

避難所は、建物の倒壊や浸水によって家を失った人や帰宅困難者などを保護する施設です。小・中学校や公民館などを指定しています。避難所で生活が困難な要配慮者(高齢者や障害者など)を受け入れる「福祉避難所」もあります。避難所の場所は、「八千代市防災ハザードマップ」や「VACAN Maps(バカンマップス)」などで確認してください。



避難所はどのように運営されますか？

避難所は市の職員ではなく、避難してきた人たちによって運営されます。災害に備えて、各避難所周辺の住民で避難所運営委員会が組織されていて、「避難所運営マニュアル」の作成などを行っています。

委員は、保健班や情報収集班など役割分担がされ、避難所でリーダーとして活動することになっています。ですが、被災の状況によっては委員が避難所に来られない場合もあります。避難する人、一人ひとりがスタッフだという意識を持つことが大切です。



まずは地域の防災訓練等に参加してみよう！





プライバシーを守るために行っていることはありますか？



避難所の中は男性と女性で分かれていますか？

パーティションやプライベートルームである程度、避難所内を分けることはできます。台風など短期間の開設の場合は、仕切りなどは設置しません。今後、市と避難所運営委員会で考えていかなければいけません。今は避難所の中を性別で分けることは考えていません。



トイレや夜間の安全対策はされていますか？



避難所で性犯罪などの事件があったと聞きました。女性を守る体制・環境はありますか？

暗くない場所や人目につきやすい場所など、安全性に配慮してトイレの設置場所を決めるようにしています。

過去の災害では、女性や子どもへの性被害やDV(ドメスティックバイオレンス)が平常時以上に起きていたことが分かっています。見回りをするなど避難所運営委員会で役割を決め、犯罪が起こらないよう対策を事前に考えています。



トイレに一人で行かない、防犯ブザーを持つなどの対策で自分を守ることも大切だね。防災倉庫には注意喚起ポスターも入っているよ。



女性のトイレの数が少ないと不便ですが、どんな対策がされていますか？

水を使わない仮設トイレや簡易トイレ(※)、故障がなければ、体育館や校舎のトイレも使うことができます。各避難所には女性用3基、男性用2基の仮設トイレ、和式トイレを洋式にするキットを備蓄しています。



(※)仮設トイレ：組み立て式の汲み取り式トイレ

簡易トイレ：折り畳み式のコンテナに便座が付いているタイプ。コンテナの中にビニール袋を設置し、排せつし凝固剤を入れ可燃ごみとして処理する。



お風呂に入れますか？



市では、お風呂の設置を予定していません。お風呂に入れるのは、自衛隊など外部からの支援が入ってからになります。避難後、少なくとも3日間は入れないと思っていてください。



お風呂に入れなくてもいいように、何を準備すればいいかな？



着替える服や洗濯はどうしたらいいですか？



水道が使えなくなった場合も、避難所の中にある災害用井戸を使って洗濯ができます。物干しざおなどはないので、自分たちで工夫することが必要です。洗濯物を干す場所があるかどうかは、避難所によって違います。下着を含めて衣類は備蓄していないので、自分で準備しておいてください。



避難所にどんなものが、どれくらいストックしてありますか？



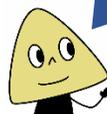
食料や飲料は、市民全員に行き渡る量はありますか？

市では、被災者の生命維持に最低限必要なものを3日分備蓄しています。避難してきた人に配ることができるのは、サバイバルフーズ、水、赤ちゃん用の液体ミルクと容器、子ども用と大人用の紙オムツ、生理用ナプキンなどです。歯ブラシやタオルなどはありません。

市の備蓄量は、市民の皆さん一人ひとりが備蓄していることを前提に考えています。自宅での備蓄や、非常用持ち出し袋の準備をしておいてください。



▲ 災害用井戸



自分のものは自分で用意しておかないと！



▲ 防災倉庫



生理用品やオムツなどデリケートなものはどのように分配されますか？

分配方法は避難してきた人たちで考えていくことになります。女性が生理用品などの配布に携わると避難所運営マニュアルで決めている避難所もあります。



乳幼児連れの避難で心配です。避難所には子ども向けの工夫やグッズはありますか？



授乳室はありますか？

妊産婦を含む要配慮者専用のスペースを用意している避難所もあります。乳幼児連れの人々が簡易ベッドを優先的に使用できるように、避難所運営委員会に提案しています。市としては、託児スペースや子ども向けのスペースは特に考えていません。おかゆ、液体ミルク、紙オムツは備蓄していますが、離乳食、お菓子、おもちゃなどはありません。

授乳室の有無や設置場所は避難所によって違います。避難所運営委員会には、プライベートルームを授乳室として活用できることも伝えていきます。



自分が避難する予定の避難所はどうか知っておいた方がいいね。



テント型
プライベートルーム ▶



簡易ベッド ▶





膝が悪いのですが椅子などの準備はありますか？



段差があると不便ですが、どのような対策がされていますか？



障害をもっている人はどうしたらいいですか？



妊産婦、高齢者、障害者、外国人などの要配慮者専用の部屋を用意することを考えている避難所もありますが、今の段階では、それぞれ細かく部屋を分けるようにはなっていません。テント型プライベートルームを要配慮者のスペースとして活用することもできます。

膝が悪い人への対応としては、簡易ベッドをベンチのように使うことを避難所運営委員会に提案しています。避難所はバリアフリーになっていません。避難してきた人同士が快適に過ごしていけるようお互い協力しましょう。



セクシュアルマイノリティへの配慮は何かされていますか？

今のところはできていません。今後、市と避難所運営委員会で対応していく必要があります。



防災倉庫には、セクシュアルマイノリティの人たちが災害時に困りがちなことや対応策をまとめた「にじいろ防災ガイド」が入っているよ。



炊き出しなど女性にだけ負担がかかることがないようにするために、男女半々でものごとを決めたり実行していきたいですが、どうしたらよいでしょうか？



いざという時、近くの人とどう協力するのかがわかりません。

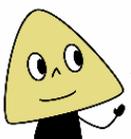


ひとり暮らしの高齢者の情報がなく、声をかけることができません。災害時の実際の動き方を話し合える場はありますか？

自治会や自主防災組織、避難所運営委員会で話し合うことができます。地域の防災訓練等にも参加してみてください。危機管理課へ問い合わせただけであれば、お住まい近くの避難所の避難所運営委員会を紹介することができます。



男女共同参画センターでも講座などで地域防災への女性の参画に取り組む予定だよ。



今のうちにブックマークや登録をしておこう！ 防災お役立ちツール

● 八千代市Web版防災ハザードマップ

被害の想定される区域と被害の程度や災害別の安全な避難所が確認できます。



● VACAN Maps (バカンマップス)

マップ上で、リアルタイムの避難所の開設状況や空き・混雑状況が見られます。



● 八千代市LINE公式アカウント

避難所の開設状況、防災無線や災害情報などについての詳しい情報が確認できます。LINEアプリをスマートフォンなどにインストールした後、右の二次元コードを読み取り「友だち追加」してください。



▲友だち追加用
二次元コード

● やちよ情報メール

避難所の開設状況、防災無線や災害情報などの詳しい情報がメールで送られます。bousai.yachiyo-city@raidan3.ktaiwork.jp に空メールを送信すると、登録用フォームが配信されますので手順に沿って登録してください。



● 自動電話応答サービス (0120-970-911 (通話料無料))

24時間以内に放送された、最新の防災無線放送内容について確認できます。



八千代市男女共同参画センターは、

「災害時における男女共同参画センター等の相互支援ネットワーク」に参加しています

「災害時における男女共同参画センター等の相互支援ネットワーク」は、男女共同参画センター、男女共同参画所管課を結ぶ全国ネットワークです。大規模災害発生時だけでなく、平常時にも、情報交換などを行っています。

東日本大震災時、被災地の男女共同参画センターでは、女性や子どもなどへの直接的な支援、広報・啓発活動、DVや女性の悩み相談の開設、雇用創出など復興支援につながる活動を行いました。また被災地外の男女共同参画センターでは被災地からの情報や要請を受けながら、募金や物資の調達・提供、女性相談窓口への相談員の派遣などを行いました。

この経験から大規模災害時に、全国の男女共同参画センター同士が互いに支え合う仕組み作りが不可欠であるという認識のもと、2015年に全国女性会館協議会が構築したシステムです。大規模災害時には、八千代市男女共同参画センターでも、このシステムを活用し、災害時における困難への対応を図っていきたいと考えています。

「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」

これまでの災害で、様々な意思決定過程への女性の参画が十分でなく、女性と男性のニーズの違いなどが配慮されないといった課題が生じたことから、内閣府は令和2年に「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」を作成しました。基本的な考え方と、平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の各段階において取り組むべき事項が示されています。

■ 内閣府URL <https://www.gender.go.jp/policy/saigai/fukkou/guideline.html>

男女共同参画だより やちよぺあ (No.48 令和5年秋号)

【発行】八千代市男女共同参画センター

電話：047-485-7088

メール：danjo@city.yachiyo.chiba.jp

所在地：八千代市八千代台南1-11-6

(八千代台東南公共センター4階)

